

感染症対策～合同会社アベユ～としての取り組み～

政府・自治体からの要請・指導の下、利用者様、保護者の皆様、従業員並びに関係者様の安全確保を最優先し、下記の通り感染症の感染拡大防止に向け現在も一丸となって取り組んでおります。

（１）感染症対策実施について（利用者様・職員）

利用者様の来所の際は、手指消毒・手洗い、検温の実施を徹底しております。

事業所内各所、並びに送迎者や玩具など複数の職員や利用者様が共有するものを毎日消毒しております。毎日複数回窓を開けての換気を行っており、設備として 24 時間強制換気システムも導入しております。

職員は出社時に検温し、利用者様は来所時の検温とは別に連絡ノートにて当日朝のご自宅での検温実施結果をお知らせいただき、37.5℃以上の発熱や咳等の呼吸器症状、倦怠感があつた際には利用を控えていただいております。来所後、利用者様及び職員に上記の症状が出た場合には帰宅を要請しております。

（２）職員の健康チェック

上記以外にも体調の変化や37℃以上37.5℃未満の体温の場合は勤務中も1時間

おきに検温をし健康観察を行います。勤務中、上記に抵触する体調となった場合は上長に速やかに報告の上、帰宅させております。

（３）室内清掃・消毒について

毎日確実に実施しております。

消毒液の効果・効能が薄れる前に定期的に新しいものに交換しております。

(4) 来所者への対応

アポイントのない訪問を禁止しております。

また、 ご来所いただきます方につきましても特別な事由がない限りご不便ではござい

ますが手指消毒等をお願い申し上げます。

何卒ご理解賜りますよう、 よろしくお願い申し上げます。

合同会社アベユ

代表取締役鈴木祐雅

熱中症予防 × コロナ感染防止で

「新しい生活様式」を健康に！

「新しい生活様式」とは：新型コロナウイルス感染防止の3つの基本である ①身体的距離の確保
②マスクの着用 ③手洗いの実施や「3密（密着、密接、密閉）」を避ける、等を取り入れた日常生活のこと。

【注意】マスク着用により、熱中症のリスクが高まります

マスクを着けると皮膚からの熱が逃げにくくなり、気づかいうちに脱水になるなど、体温調節がしづらくなってしまいます。
暑さを避け、水分を摂るなどの「熱中症予防」と、マスク、換気などの「新しい生活様式」を両立させましょう。



熱中症を防ぐために

マスクをはずしましょう

ウイルス
感染対策は
忘れずに！



屋外で
人と2m以上
(十分な距離)
離れている時

〔 マスク着用時は 〕



激しい運動は避けましょう

のどが渇いていなくても
こまめに水分補給をしましょう



気温・湿度が高い時は
特に注意しましょう





暑さを避けましょう

- ・涼しい服装、日傘や帽子
- ・少しでも体調が悪くなったら、涼しい場所へ移動
- ・涼しい室内に入れなければ、外でも日陰へ



のどが潤いていなくても こまめに水分補給をしましょう



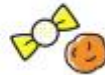
1時間ごとに 入浴前後や起床後も
コップ1杯 まず水分補給を

- ・1日あたり
1.2L(1.2ℓ)を目安に



ペットボトル 500mL 2.5本
コップ約6杯

- ・大量に汗をかいた時は**塩分**も忘れずに



エアコン使用中も こまめに換気をしましょう

(エアコンを止める必要はありません)

注意 一般的な家庭用エアコンは、室内の空気を
循環させるだけで、換気は行っていません

- ・窓とドアなど**2か所**を開ける
- ・扇風機や換気扇を併用する



- ・換気後は、エアコンの温度を
こまめに再設定



暑さに備えた体づくりと 日頃から体調管理をしましょう

- ・暑さに備え、暑くなり始めの時期から、無理のない
範囲で**適度に運動**(「やや暑い環境」で「ややきつい」
と感じる強度で**毎日30分程度**)



- ・毎朝など、**定時の体温測定と健康チェック**
- ・体調が悪い時は、無理せず**自宅**で静養

知っておきたい 熱中症に関する大切なこと



熱中症による死亡者の数は
真夏日(30℃)から増加
35℃を超える日は特に注意!
運動は原則中止。外出はなるべく避け、
涼しい室内に移動してください。

■年齢別/熱中症死亡者の割合

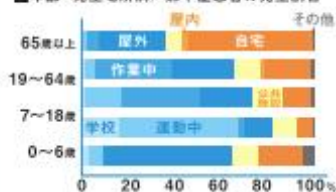


出典:「熱中症による死亡数 人口動態統計2018年」厚生労働省

熱中症による死亡者の
約8割が高齢者

約半数が80歳以上ですが、
若い世代も注意が必要です。

■年齢・発生場所別/熱中症患者の発生割合



出典:「救急搬送データから見る熱中症患者の増加」国立環境研究所 2009年

高齢者の熱中症は
半数以上が自宅で発生

高齢者は自宅を涼しく、若い世代は屋外
での作業中、運動中に注意が必要です。

高齢者、子ども、障害者の方々は、熱中症になりやすいので十分に注意しましょう。
周囲の方からも積極的な声かけをお願いします。